



若あゆ泳ぐ

教育長 津野庄一郎

「若あゆ泳ぐ荒川の」と、関川小学校の校歌にも歌われる清流・荒川は、2003 年から 2005 年まで 3 年連続で水質日本一に輝き、2008 年 6 月には環境省から「平成の名水 100 選」に選ばれている本県で 3 番目に長い川です。また、磐梯朝日国立公園の景勝「荒川峡」は、ふるさとの誇りです。

子どもの頃は、夏になると近所の仲間と、下関から対岸の滝原に伸びる荒川の堰せきで、よく泳いだり、ヤスでかじかを獲ったりして遊びました。また、上関の獅子舞岩ししまいでは黄銅鉱おうどうこうや土器を見つけるのが楽しみでした。中学校の故富樫讓先生とがしゆずる（学級担任）は、鮎釣りの名人で、橋場のご自宅に遊びに行くといつも自慢げに釣った鮎を焼いて食べさせてくれました。梅雨が明けて鮎漁が解禁になると、温泉橋や小見橋のあたりは、太公望たいこうぼうたちが訪れ、釣竿を垂れている。そんな風景が荒川にはぴったりです。

6 月 26 日午前、関川小学校 1 年生 15 名が、荒川の河川敷（ふれあいど〜む近く）から、鮎の稚魚を 700 匹余り放流する体験をしました。子どもたちは、「大きくなってね」などと声を掛けながら、バケツの中に入れた鮎を次々に川に放ちました。子どもたちが目をキラキラさせて活動する姿や「楽しかったよ」と話す姿に、伊藤校長先生や引率の先生方も顔がほころびました。お礼もみんな大きな声でしっかりとと言える 1 年生。素晴らしいです。

今回、このような貴重な機会をつくってくださった荒川漁業協同組合の皆さん、農林課の皆さんに深く感謝を申し上げます。関川村を東から西へと、支流を集めて悠々と流れる荒川。あらためてこの恵の川を大切にしたいと思いました。